
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第33週
(8月16日～8月22日)

- * 2010年8月25日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2010年7月)の疾患及び感染症豆知識
「日本紅斑熱」も掲載しています。

平成22(2010)年8月26日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週		33週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	54	69	55	64	2,597	304	15,925
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					1	1	5
	細菌性赤痢	1	5	1	2	48	7	113
	腸管出血性大腸菌感染症	7	17	18	24	198	194	2,347
	腸チフス		1		1	6	1	21
	パラチフス					3		14
四類	E型肝炎			1		7	1	45
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1			1	36	3	290
	エキノкокクス症							6
	黄熱							
	オウム病							7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							1
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5	1	111
	デング熱		2	2	2	27	9	112
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	3	47
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア		1	3	2	18	3	45
野兎病								
ライム病					1		8	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		2	
レジオネラ症	2	1	1	1	26	11	446	
レプトスピラ症					2		5	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	4	6	3	108	10	519
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		2		1	27	1	125
	急性脳炎 *2					12	2	153
	クリプトスポリジウム症	1				3		10
	クロイツフェルト・ヤコブ病					10	1	105
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1		14	1	83
	後天性免疫不全症候群	13	6	9	6	301	13	932
	ジアルジア症					9	1	48
	髄膜炎菌性髄膜炎							5
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	6		4	106	3	381
	破傷風					2	3	61
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					11	1	68
風しん					10	1	66	
麻しん		1		3	58	8	353	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	
2010/8/25集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 64件 肺結核36件、その他の結核26件、肺結核及びその他の結核2件で、推定感染地は国内62件、フィリピン2件、年齢は5歳未満1件、10歳代4件、20歳代11件、30歳代10件、40歳代8件、50歳代6件、60歳代5件、70歳代9件、80歳代8件、90歳以上2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 菌種はフレキシネル1件、ソンネ1件。推定感染地はインド1件、フィリピン1件、推定感染経路はどちらも飲食物による経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 24件 患者20件、無症状病原体保有者4件。血清型・毒素型はO157(VT1)4件、O157(VT2)4件、O157(VT1VT2)12件、O157(毒素型不明)2件、O26(VT1VT2)1件、O111(VT1)1件で、そのうちO157(VT1)3件は同一施設の関係者である。年齢は10歳未満6件(うち5歳未満3件)、10歳代5件、20歳代7件、30歳代1件、50歳代1件、60歳代2件、70歳代1件、80歳代1件であった。

腸チフス 1件 患者で年齢は10歳未満。推定感染地はネパールで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 推定感染地は国内、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

デング熱 2件 血清型はどちらも不明で、推定感染地はフィリピン1件、マレーシア1件である。

マラリア 2件 どちらも熱帯熱マラリアで、推定感染地はガーナ1件、ナイジェリア1件であった。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は国内で、推定感染経路は水系(風呂)感染である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 全て腸管アメーバ症。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、その他(不明)1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触であった。

後天性免疫不全症候群 6件 無症候キャリア4件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代2件、AIDS患者の年齢は20歳代1件、50歳代1件である。推定感染地は国内5件、国外1件、推定感染経路は全て性的接触(同性間4件、異性間2件)であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候3件。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間2件、異性間2件)であった。

麻しん 3件 麻しん(検査診断例)1件、麻しん(臨床診断例)1件、修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は5歳未満2件、30歳代1件、麻しん含有ワクチン接種歴は無し2件、不明1件であった。

※第32週該当分として、三類 腸管出血性大腸菌感染症 1件(患者、O157VT1)、五類 後天性免疫不全症候群 1件(無症候キャリア、5歳未満、母子感染)の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年33週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		30週	31週	32週	33週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	7	18	5	2	0.01	144	150
	咽頭結膜熱	55	30	32	27	0.19		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	96	106	63	60	0.42		
	感染性胃腸炎	444	415	336	334	2.32		
	水痘	112	67	45	67	0.47		
	手足口病	464	379	236	209	1.45		
	伝染性紅斑	37	59	36	36	0.25		
	突発性発しん	99	90	60	81	0.56		
	百日咳	13	17	5	19	0.13		
	ヘルパンギーナ	716	467	260	182	1.26		
	流行性耳下腺炎	129	118	69	106	0.74		
	不明発しん症 (注1)	17	19	14	13	0.09		
MCLS(川崎病) (注1)	0	3	0	0	0.00			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	5	14	4	5	0.02	280	290
眼科	急性出血性結膜炎	0	1	0	3	0.08	38	39
	流行性角結膜炎	15	10	9	24	0.63		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	2	1	0.04	24	25
	無菌性髄膜炎	0	3	5	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	7	11	5	6	0.25		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		

2010/8/25集計

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・手足口病の定点当たり報告数は5週連続して減少した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・百日咳の定点当たり報告数は増加した。暦年の累計報告数としては、感染症法施行(1999年)以来最大となっている。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は5週連続して減少した。しかし過去5年平均の同時期と比較して多い。

(定点医療機関からのコメント)

みなと保健所管内定点医療機関

- ・不明発しん症:猩紅熱様皮しん

江東区保健所管内定点医療機関

- ・百日咳:2例(成人1例、2歳児1例)

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1	1		5	1	2		2		1
～11か月		1		31	5	13		30		14
1歳	1	5	3	58	16	66	2	41		54
2歳		4	4	33	11	42	7	4	1	37
3歳		3	9	28	10	17	5	3		26
4歳		7	5	23	8	15	6		1	16
5歳			8	18	7	16	4	1		10
6歳			10	14	4	8	8		1	3
7歳		1	4	14	2	9	2		1	2
8歳			3	7		5	2		2	6
9歳		1	2	9		3				3
10～14歳		2	4	33	1	6			1	7
15～19歳		1	2	12						
20～29歳		1	6	49	2	7			12	3
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	2	27	60	334	67	209	36	81	19	182
先週比	-3	-5	-3	-2	22	-27		21	14	-78

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						
～11か月	4	4				
1歳	7	2		1		1
2歳	7	3				1
3歳	13	2				
4歳	14					
5歳	16					
6歳	16					1
7歳	6	1				2
8歳	4	1				
9歳	3					
10～14歳	10			1		
15～19歳	1					
20～29歳	5			1		5
30～39歳				1	2	4
40～49歳						3
50～59歳				1	1	2
60～69歳						1
70～79歳						4
80歳以上						
合計	106	13		5	3	24
先週比	37	-1		1	3	15

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年33週

	風しん	麻しん
0歳		1
1歳		1
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	3

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				3				1		1
中央区			1					2		2
みなと	1	4	1	23	2	22		4	1	18
新宿区		1	4	7	2	7	1	1	7	8
文京				2	7	3				1
台東	1	1	3	2	2	1				1
墨田区		1		7		6	1	4		1
江東区		2	4	18	2	12		3	2	11
品川区			1	13	3	9		2		7
目黒区				2		1		3		
大田区		4		30	2	29		4	4	20
世田谷		1	2	23	2	8	1	3		4
渋谷区				7		5	4			1
中野区		1	3	21	1	5		1		2
杉並		1	2	25	1	8	3	4		1
池袋				3		1		1		7
北区		1		9	4	3	1	5		5
荒川区			1	7	3	5		2		1
板橋区		2	1	2	1	1				1
練馬区				4	2	1		1		
足立		1	6	7		3	2			2
葛飾区		2	2		4	4	5	2		10
江戸川		2	7	2		5	1	1	4	11
八王子市		1	7	35	4	9	1	5		2
西多摩				10	2	4	1	1	1	3
南多摩			2	8	4	6	1	4		22
町田			4	22	11	14		8		11
多摩立川			1	6	3	5	6	1		5
多摩府中			1	10	3	15	3	8		9
多摩小平		2	6	26	2	17	5	10		15
島しょ			1							
東京都合計	2	27	60	334	67	209	36	81	19	182

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年33週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				2		
中央区	1					1
みなと	9	1				
新宿区	4	2				2
文京	7					2
台東						
墨田区	1	1				
江東区	1	1				1
品川区						2
目黒区						
大田区	4					1
世田谷	5				1	
渋谷区						
中野区						
杉並						
池袋	4					
北区	2					
荒川区	1	1				
板橋区						2
練馬区						
足立	1	1			1	4
葛飾区	10	1				
江戸川	3					
八王子市	7	2				4
西多摩	3					1
南多摩	11					
町田	5	3		3		
多摩立川	8					
多摩府中	10				1	2
多摩小平	9					2
島しょ						

東京都合計	106	13	-	5	3	24
-------	-----	----	---	---	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		1
西多摩		1
南多摩		
町田		1
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	3
-------	---	---

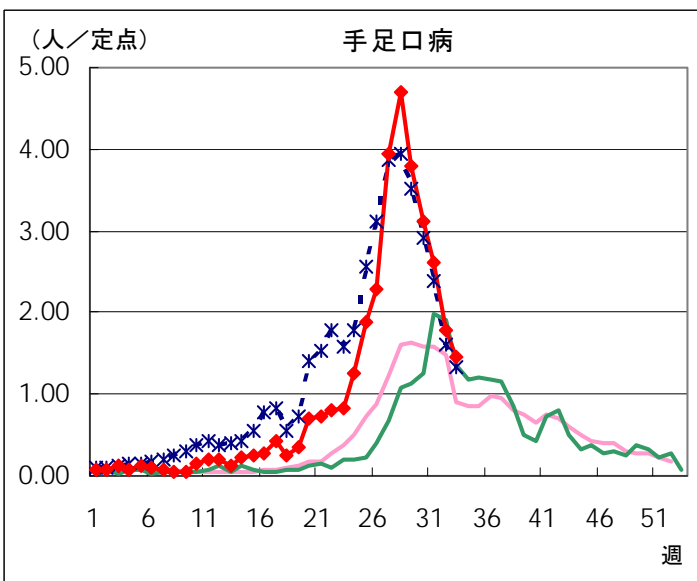
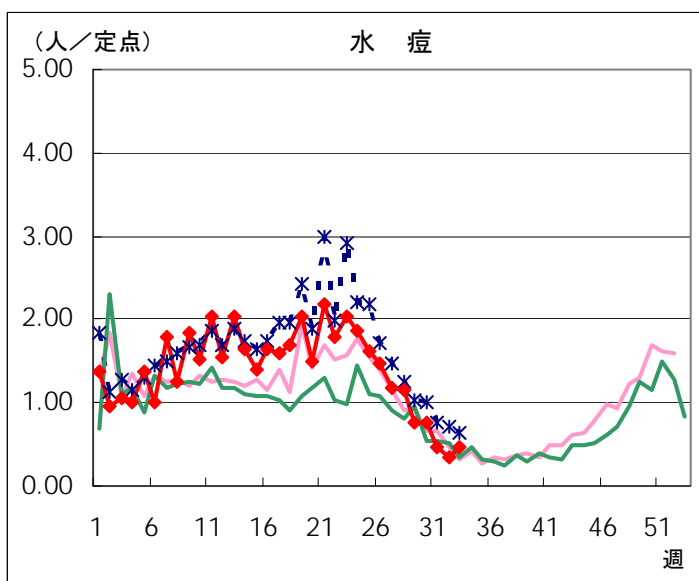
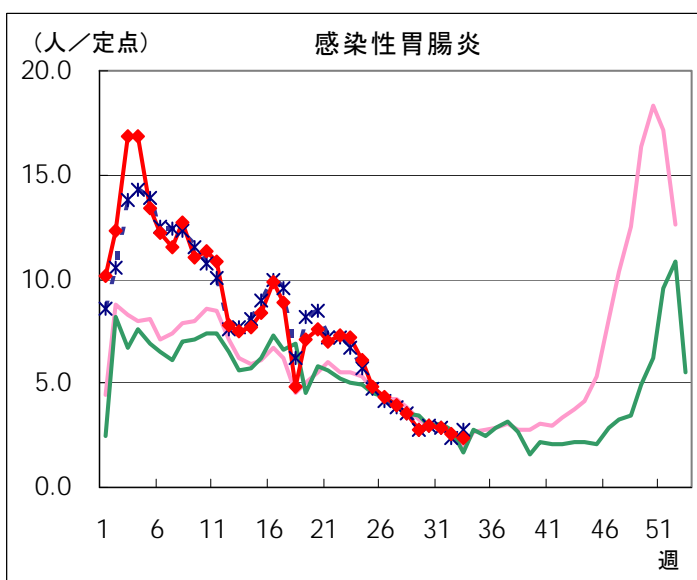
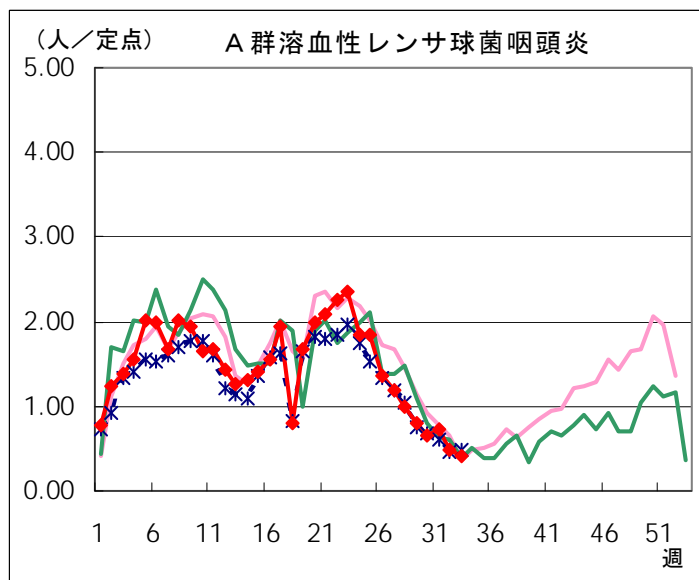
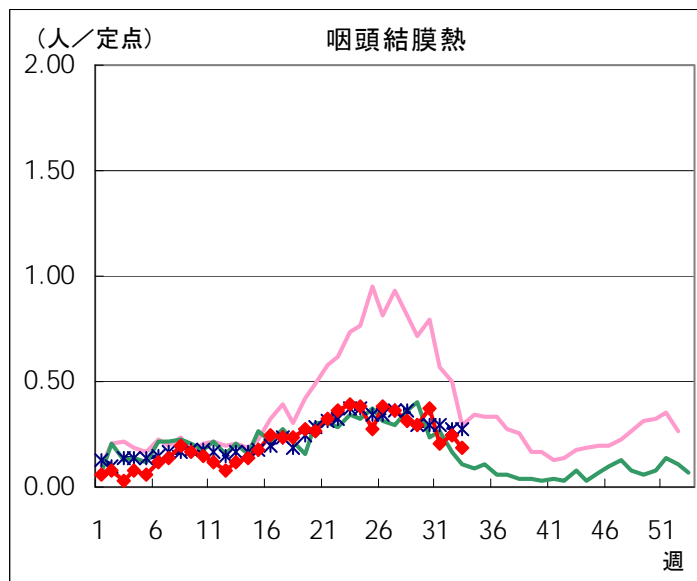
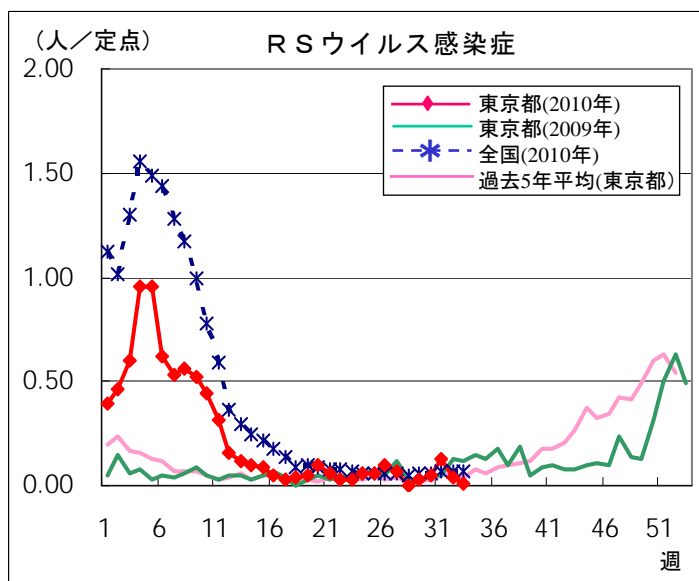
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年33週

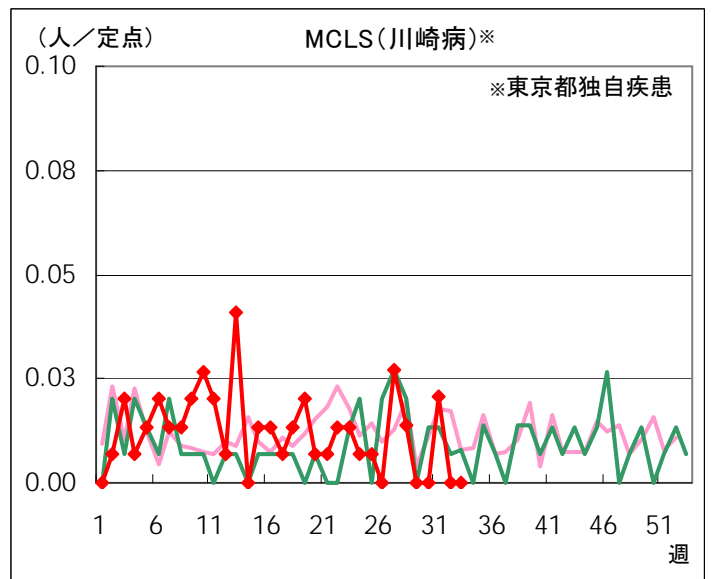
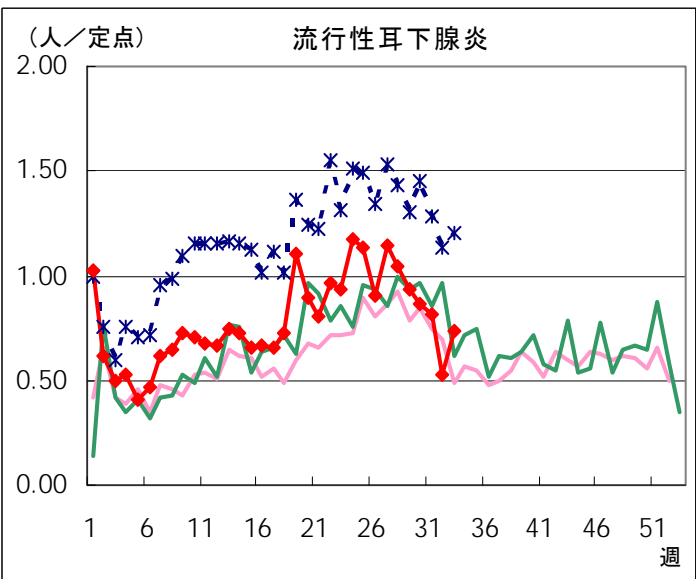
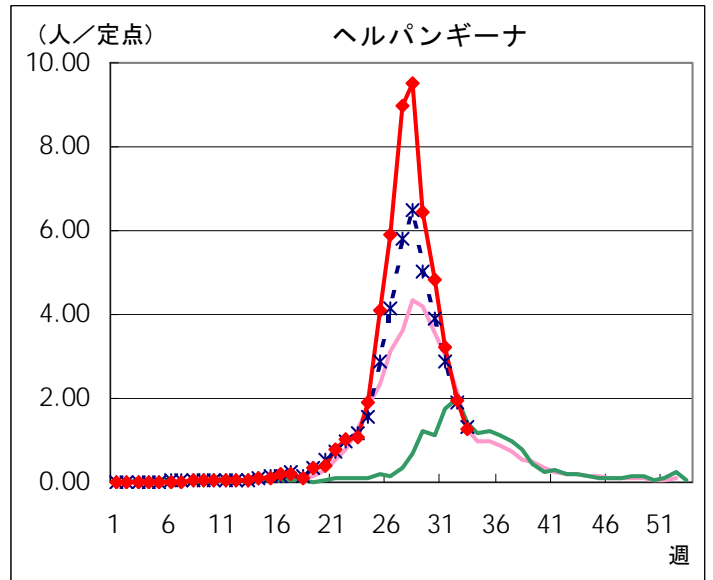
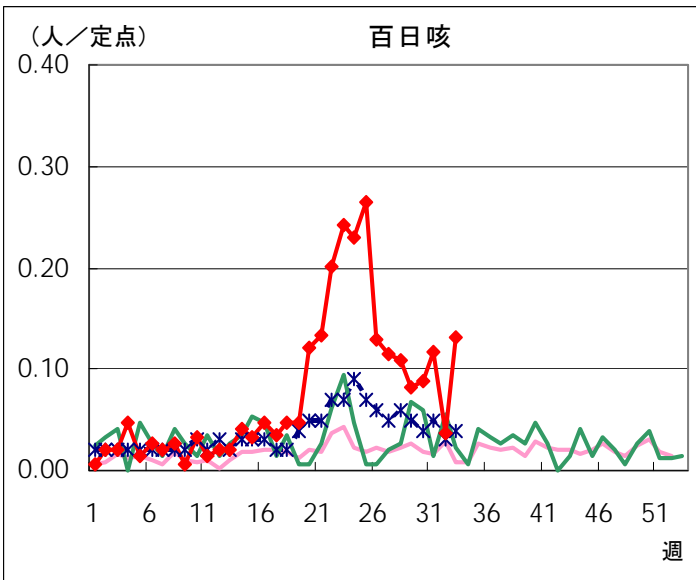
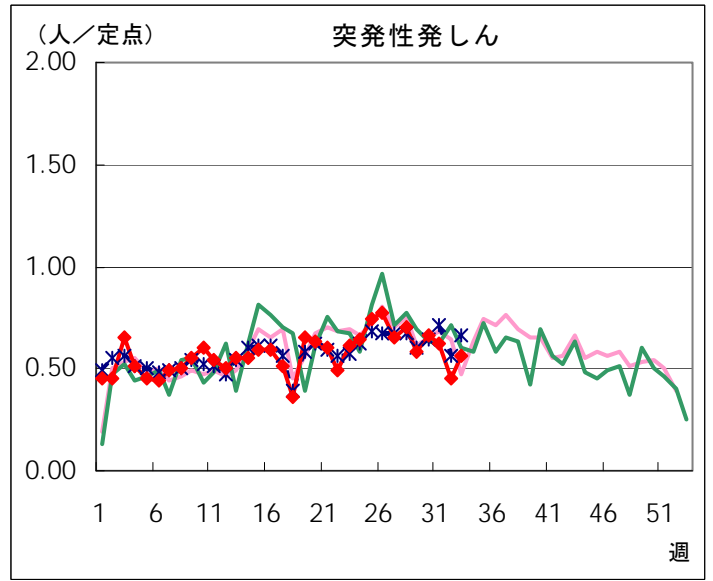
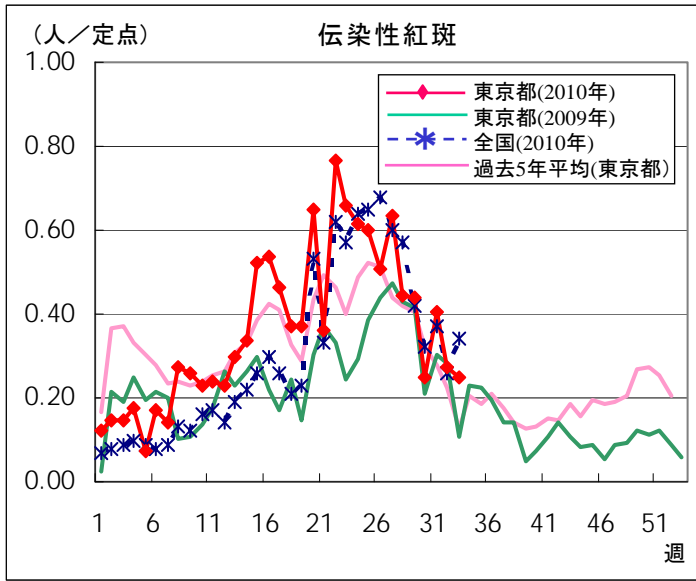
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				1.00				0.33		0.33
中央区			0.33					0.67		0.67
みなと	0.17	0.67	0.17	3.83	0.33	3.67		0.67	0.17	3.00
新宿区		0.17	0.67	1.17	0.33	1.17	0.17	0.17	1.17	1.33
文京				0.67	2.33	1.00				0.33
台東	0.33	0.33	1.00	0.67	0.67	0.33				0.33
墨田区		0.33		2.33		2.00	0.33	1.33		0.33
江東区		0.50	1.00	4.50	0.50	3.00		0.75	0.50	2.75
品川区			0.17	2.17	0.50	1.50		0.33		1.17
目黒区				0.67		0.33		1.00		
大田区		0.44		3.33	0.22	3.22		0.44	0.44	2.22
世田谷		0.14	0.29	3.29	0.29	1.14	0.14	0.43		0.57
渋谷区				1.75		1.25	1.00			0.25
中野区		0.20	0.60	4.20	0.20	1.00		0.20		0.40
杉並		0.17	0.33	4.17	0.17	1.33	0.50	0.67		0.17
池袋				0.60		0.20		0.20		1.40
北区		0.25		2.25	1.00	0.75	0.25	1.25		1.25
荒川区			0.50	3.50	1.50	2.50		1.00		0.50
板橋区		0.50	0.25	0.50	0.25	0.25				0.25
練馬区				0.67	0.33	0.17		0.17		
足立		0.20	1.20	1.40		0.60	0.40			0.40
葛飾区		0.50	0.50		1.00	1.00	1.25	0.50		2.50
江戸川		0.50	1.75	0.50		1.25	0.25	0.25	1.00	2.75
八王子市		0.25	1.75	8.75	1.00	2.25	0.25	1.25		0.50
西多摩				2.00	0.40	0.80	0.20	0.20	0.20	0.60
南多摩			0.50	2.00	1.00	1.50	0.25	1.00		5.50
町田			1.00	5.50	2.75	3.50		2.00		2.75
多摩立川			0.17	1.00	0.50	0.83	1.00	0.17		0.83
多摩府中			0.11	1.11	0.33	1.67	0.33	0.89		1.00
多摩小平		0.33	1.00	4.33	0.33	2.83	0.83	1.67		2.50
島しょ			1.00							
東京都	0.01	0.19	0.42	2.32	0.47	1.45	0.25	0.56	0.13	1.26

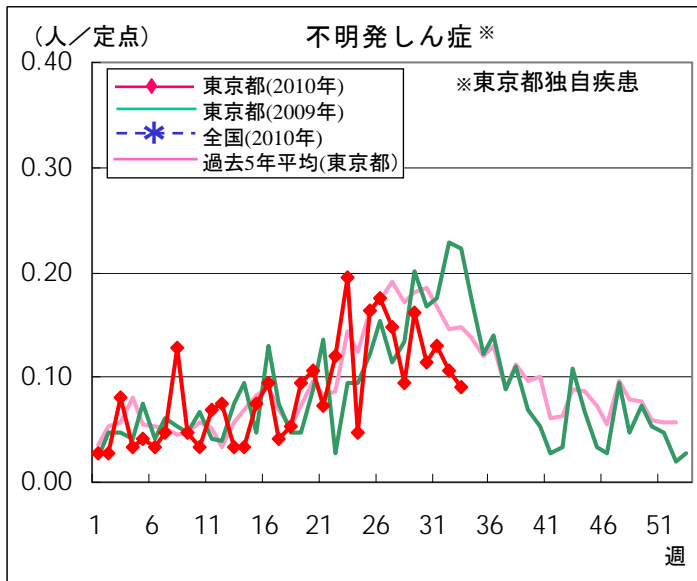
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				0.50		
中央区	0.33					1.00
みなと	1.50	0.17				
新宿区	0.67	0.33				1.00
文京	2.33					2.00
台東						
墨田区	0.33	0.33				
江東区	0.25	0.25				1.00
品川区						2.00
目黒区						
大田区	0.44					0.50
世田谷	0.71				0.50	
渋谷区						
中野区						
杉並						
池袋	0.80					
北区	0.50					
荒川区	0.50	0.50				
板橋区						1.00
練馬区						
足立	0.20	0.20			0.50	2.00
葛飾区	2.50	0.25				
江戸川	0.75					
八王子市	1.75	0.50				2.00
西多摩	0.60					1.00
南多摩	2.75					
町田	1.25	0.75		0.33		
多摩立川	1.33					
多摩府中	1.11				0.33	0.67
多摩小平	1.50					1.00
島しょ						
東京都	0.74	0.09	-	0.02	0.08	0.63

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年33週現在

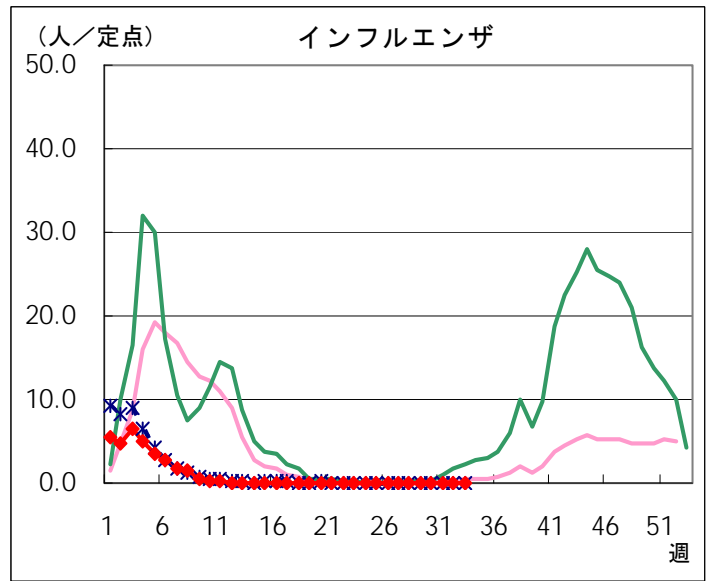
◆ 小児科定点



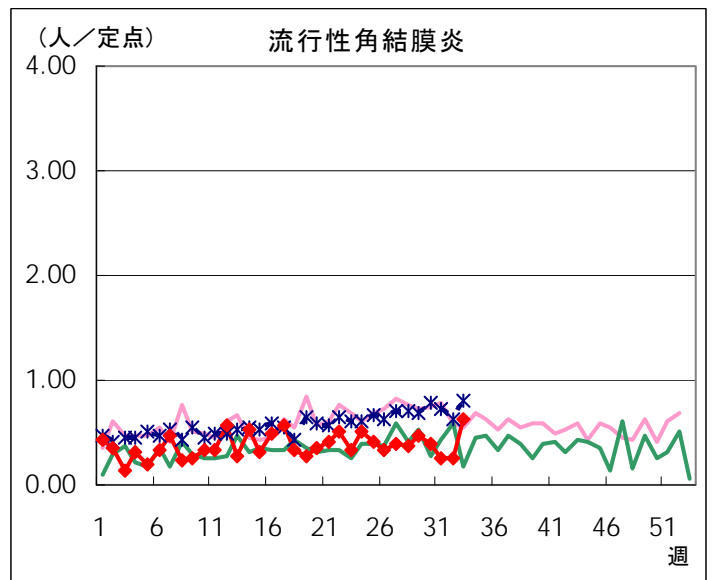
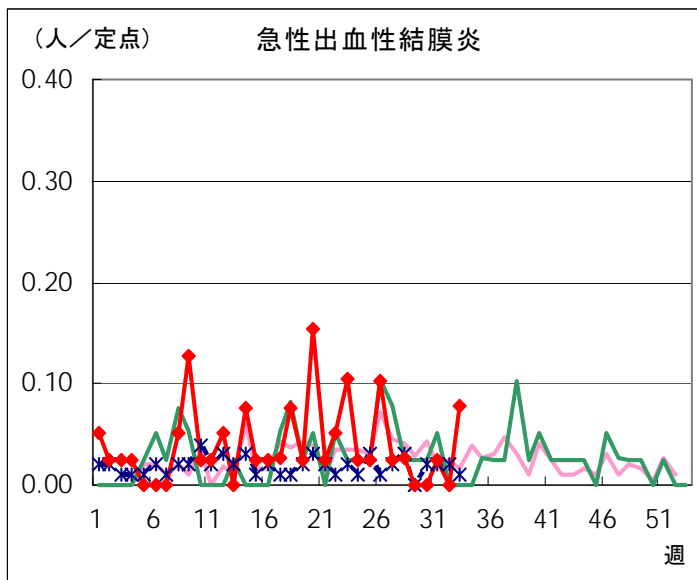




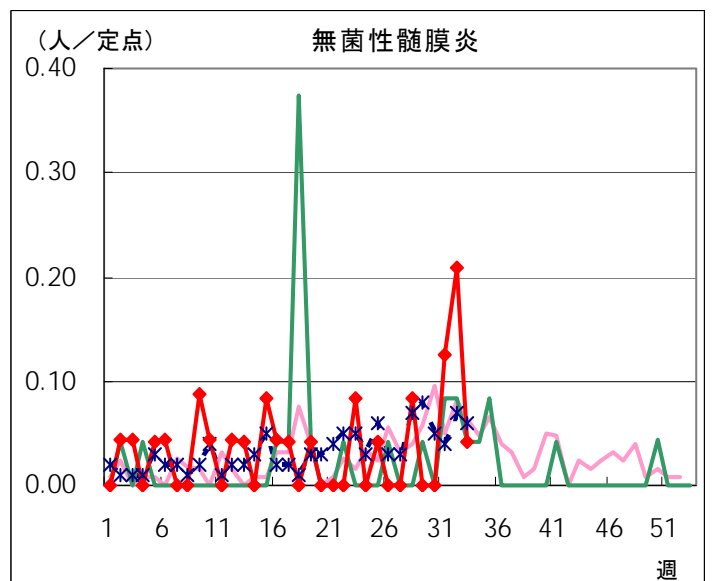
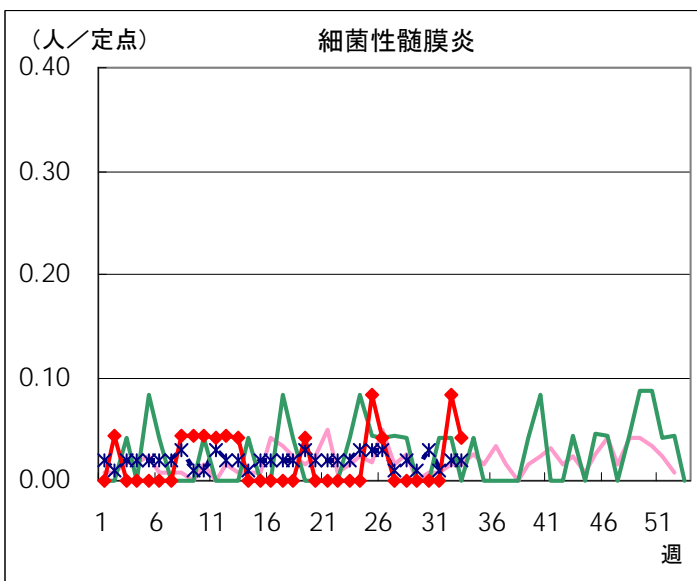
◆ インフルエンザ定点

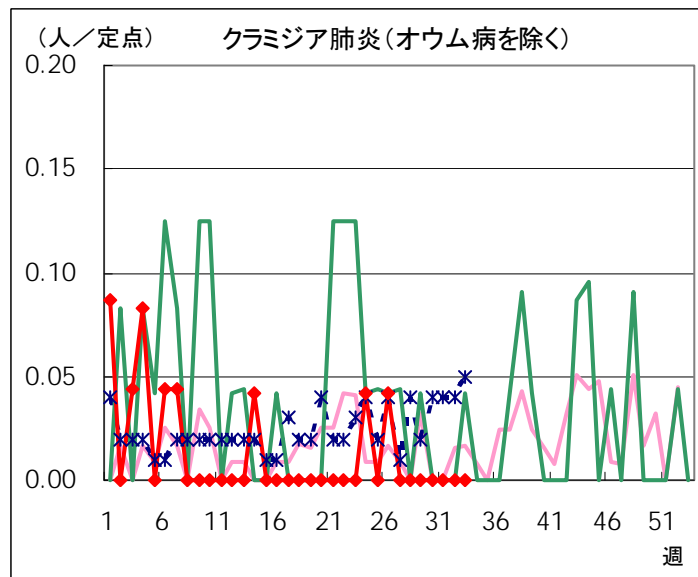
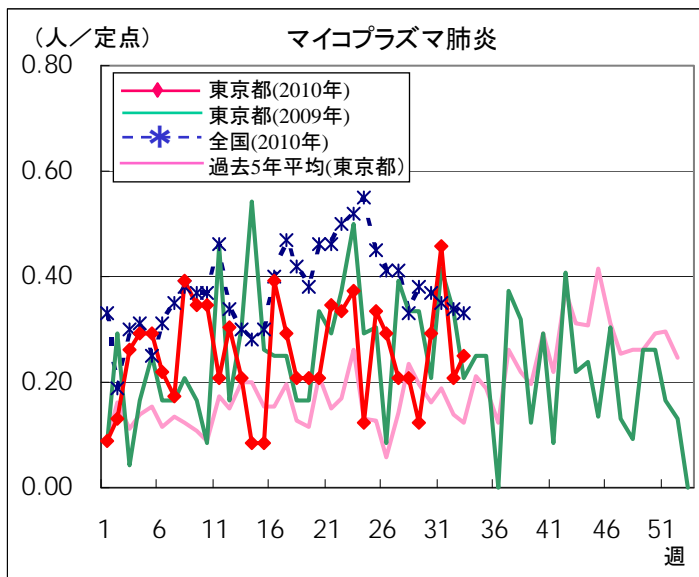


◆ 眼科定点

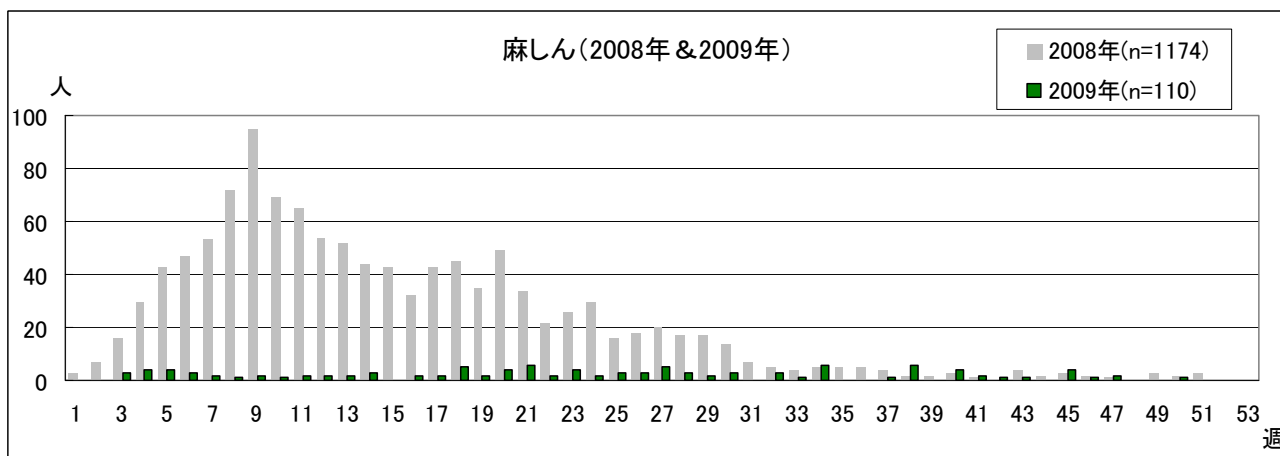
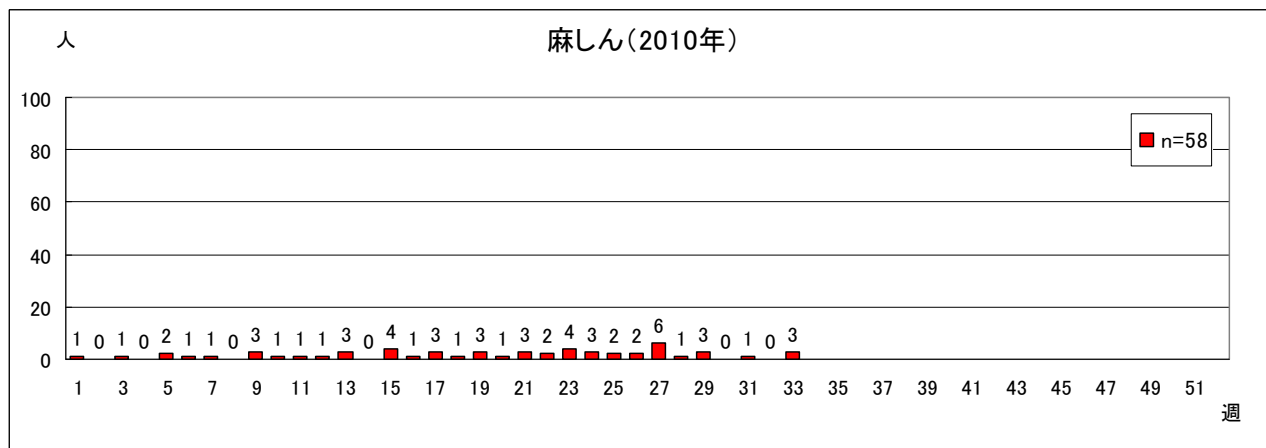


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年33週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/4	肺炎	10	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
8/5	ウイルス性蕁麻疹	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
8/5	咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス、アデノウイルス	
8/5	無菌性髄膜炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
8/6	咽頭炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス パラインフルエンザウイルス1型	
8/8	血尿	5	尿	EBウイルス	
8/9	発しん症	10	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/9	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型、7型	
8/9	無菌性髄膜炎	12	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
			髄液		
8/10	突発性発しん	6M	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
8/10	手足口病	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	
8/10	喘息	7	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/11	熱性けいれん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、7型	
8/12	流行性耳下腺炎	4	咽頭拭い液	ムンプスウイルス、EBウイルス	
8/13	不明発しん	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型、7型	
8/13	手足口病・髄膜炎	6	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
5/28 ^{※1}	劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	88	菌株 (血液由来)	G群溶血性レンサ球菌 (emm型:stg4974)	同定試験 菌型試験
記載なし ^{※2}	劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	80	菌株 (血液由来)	G群溶血性レンサ球菌 (emm型:stg6792)	同定試験 菌型試験

※1：23週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

※2：30週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
32週	0	0	0	0
今シーズン累計**	1	2	9	734

* : 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

** : 2009-2010シーズンの開始は第36週(8月31日～9月6日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週
ウイルス	アデノウイルス	1	3	1	9	2	6	3	3
	ライノウイルス	2	2	2	5	3	3	4	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群					1			
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	10	9	10	17	16	24	15	9
	単純ヘルペスウイルス						2		
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
	ヘルペスウイルス6/7		4	8	6	10	4	1	8
	EBウイルス	4	2	1	3	1	2	1	2
	サイトメガロウイルス		1			1	1	3	
	ムンプスウイルス	1		1	2		2	1	3
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	2	3	2	3	2		1	
	RSウイルス	1							
	ノロウイルス								
	ロタウイルス							1	
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3				1				
	インフルエンザウイルスB								
	新型インフルエンザウイルスAH1pdm		1	1					
	デングウイルス(抗体を含む)								
	その他のウイルス	10	6	3	3	2	2	1	1
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌		1						
	溶血性レンサ球菌			3				3	
	その他の細菌		1	3		1		5	
その他の病原体			1				1		

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年25週～2010年32週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	13	57	41	14	38	6		7	10	26	11	41	8	1	2		143	
ウイルス	アデノウイルス		9	1		3		2		4	2	1					6	
	ライノウイルス	1	5	2					2	1	2	2	2		1		5	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群	1																
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	1	22	5	5	5	3	1	9	18		17	2		1		21	
	単純ヘルペスウイルス																	2
	水痘・帯状疱疹ウイルス													1				
	ヘルペスウイルス6/7						2			13		14						12
	EBウイルス		2								1	2	1					10
	サイトメガロウイルス								1		1	2	1					1
	ムンプスウイルス					3							6					1
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											6	4					3
	RSウイルス			1														
	ノロウイルス																	
	ロタウイルス				1													
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	1																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	2																	
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス		8	14	2											1		3	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																1	
	溶血性レンサ球菌		5	1														
その他の細菌			10															
その他の病原体			1														1	

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2010年7月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	112	2.11	53	55
		女	83	1.57		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	61	1.15		
		女	43	0.81		
	尖圭コンジローマ	男	55	1.04		
		女	25	0.47		
	淋菌感染症	男	93	1.75		
		女	20	0.38		
	膺トリコモナス症*	男	1	0.02		
		女	11	0.21		
梅毒様疾患	男	6	0.11			
	女	0	0.00			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	77	3.21	24	25
		女	65	2.71		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	36	1.50		
		女	19	0.79		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	4	0.17		
		女	1	0.04		
2010/8/13						

* 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2010年7月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	1			1		
20～24歳	12	3	7	17		1
25～29歳	23	9	7	21		1
30～34歳	22	12	11	13		1
35～39歳	18	9	12	14		
40～44歳	12	4	9	14	1	2
45～49歳	12	10	7	5		
50～54歳	5	7		2		
55～59歳	4	1	1	1		
60～64歳	3	1	1	4		
65～69歳		2		1		
70歳～		3				1
合計	112	61	55	93	1	6
先月数	106	64	48	60		9
増減数	6	-3	7	33	1	-3

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	6	1	1	3		
20～24歳	20	11	10	5	1	
25～29歳	28	9	7	7	2	
30～34歳	17	7	3	3	2	
35～39歳	6	2	4	2	1	
40～44歳	4	5			2	
45～49歳	1				2	
50～54歳	1	3			1	
55～59歳		2				
60～64歳		2				
65～69歳		1				
70歳～						
合計	83	43	25	20	11	
先月数	80	38	16	9	10	
増減数	3	5	9	11	1	

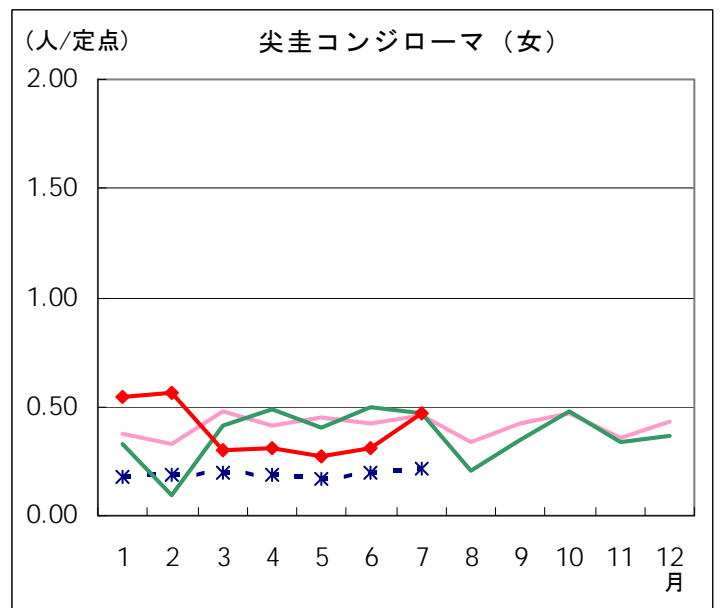
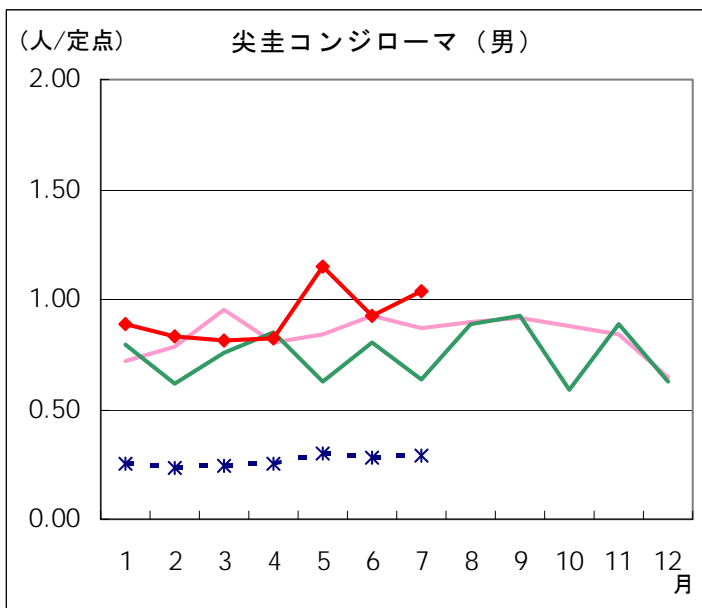
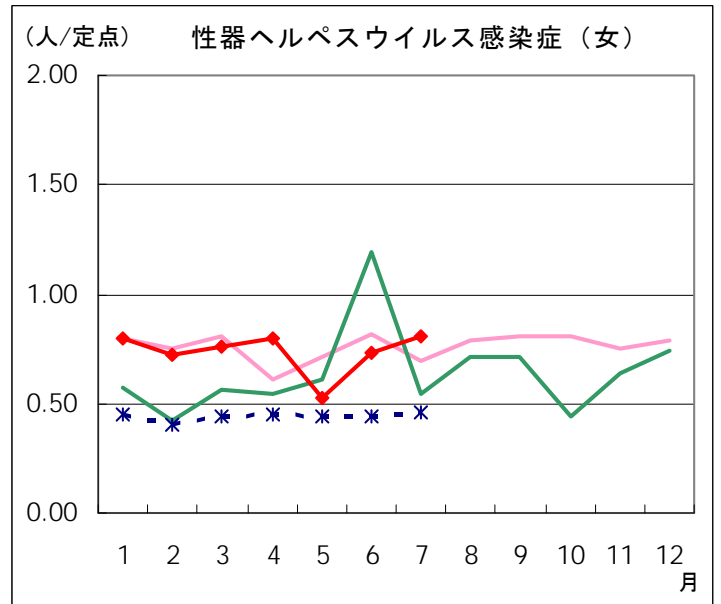
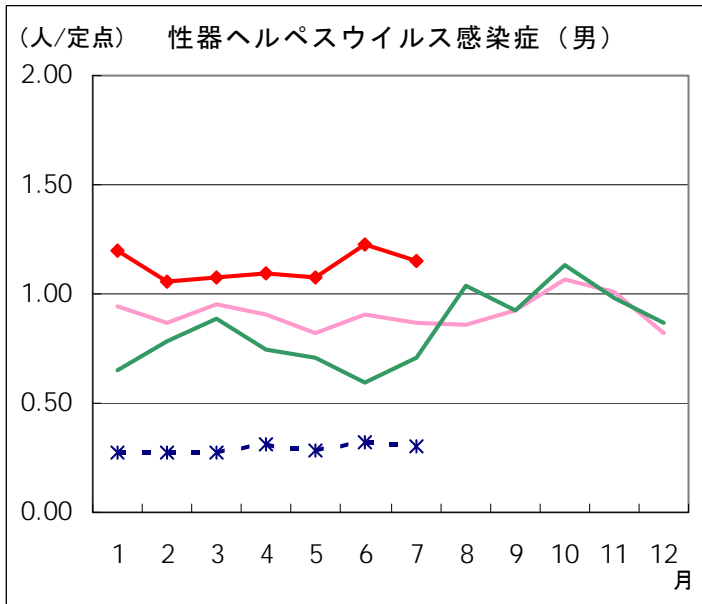
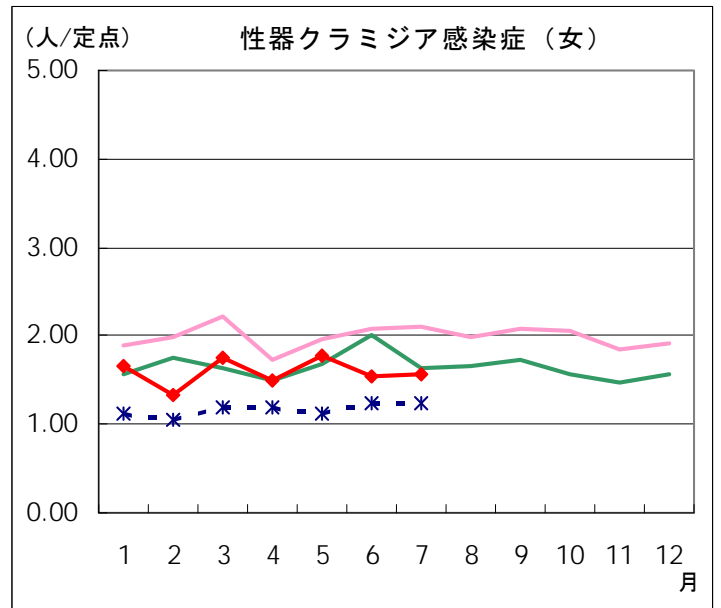
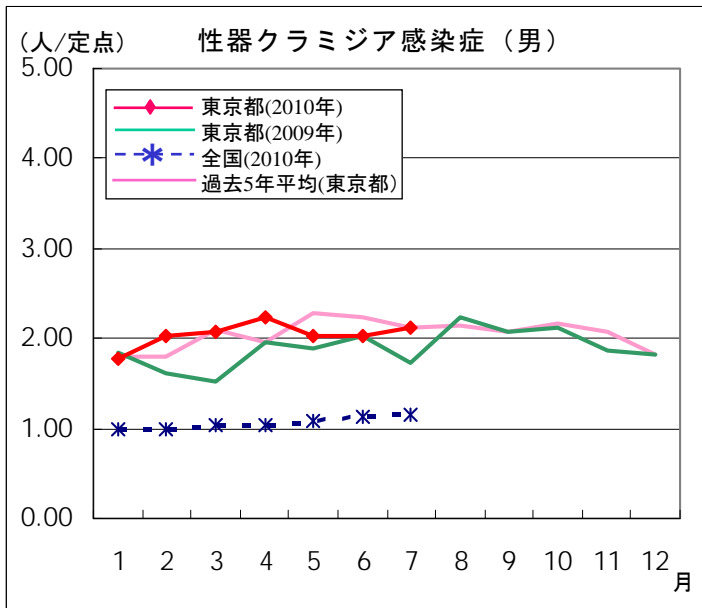
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2010年7月

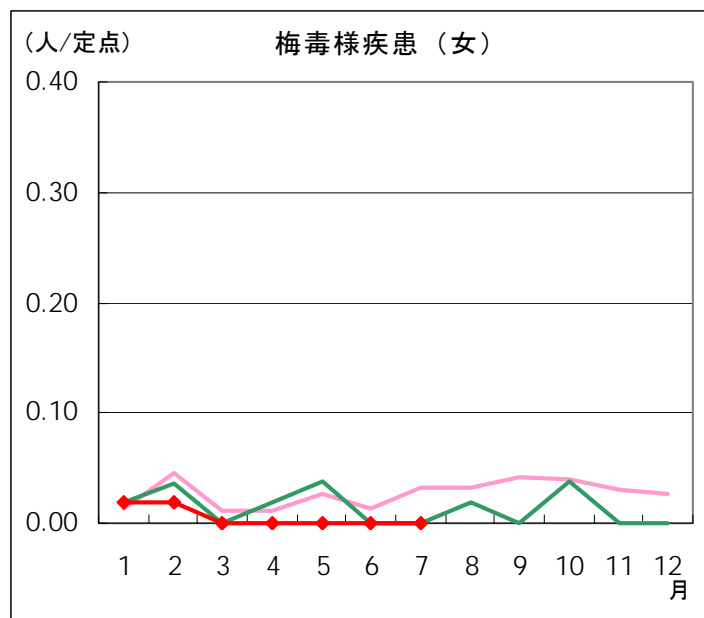
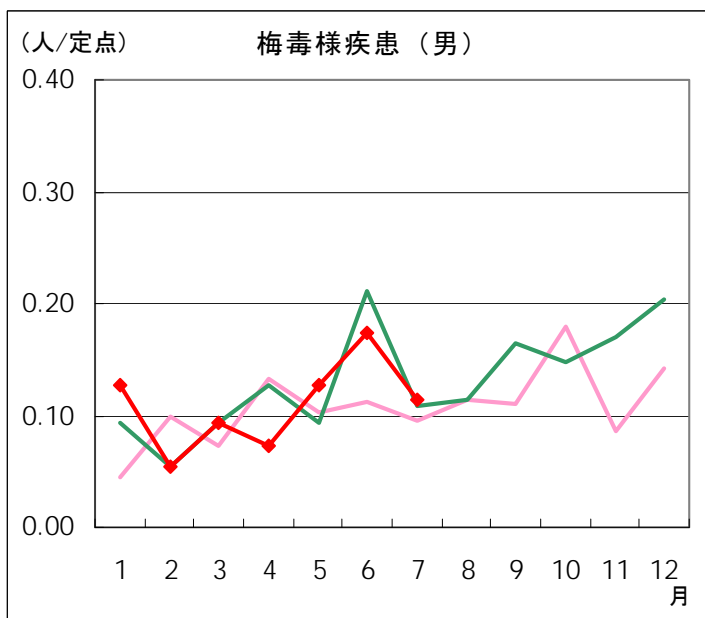
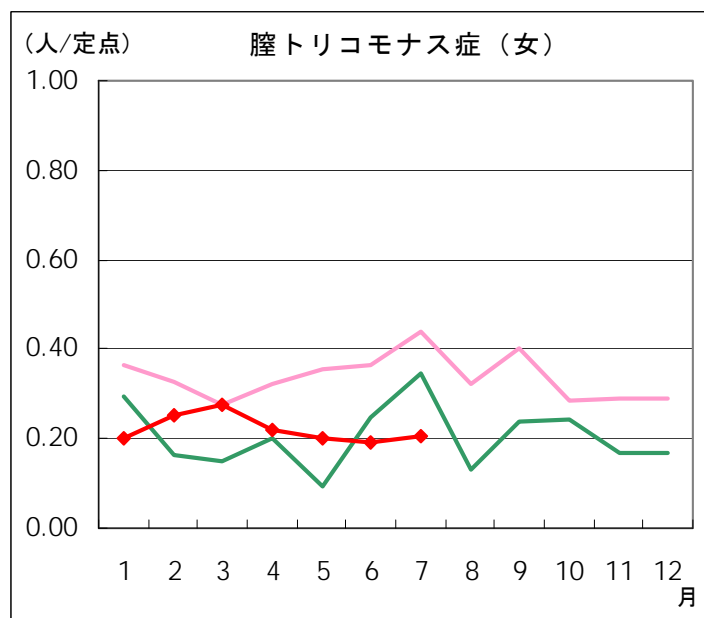
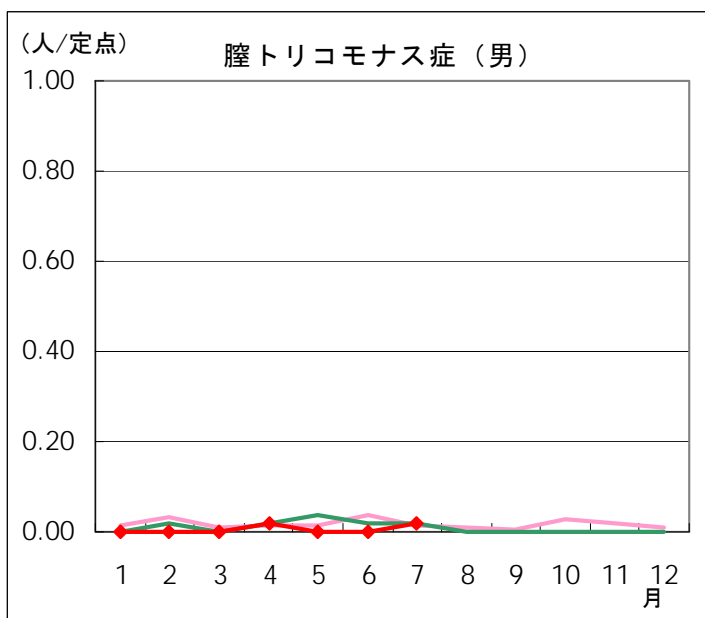
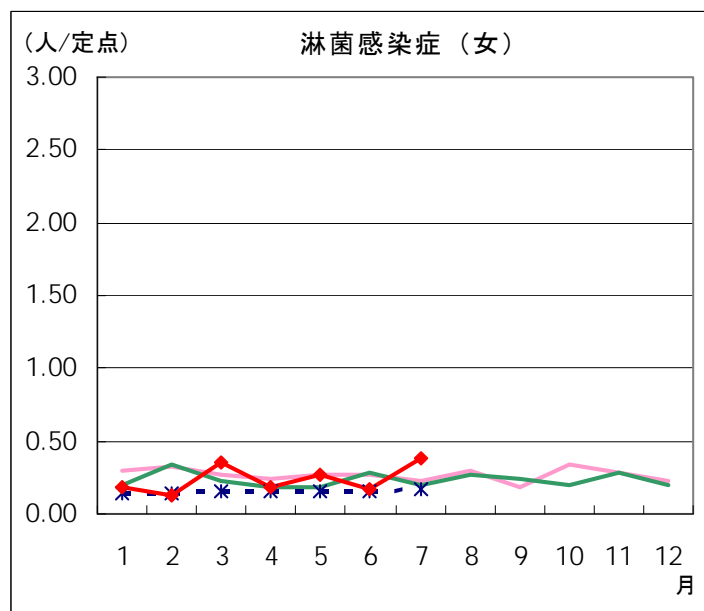
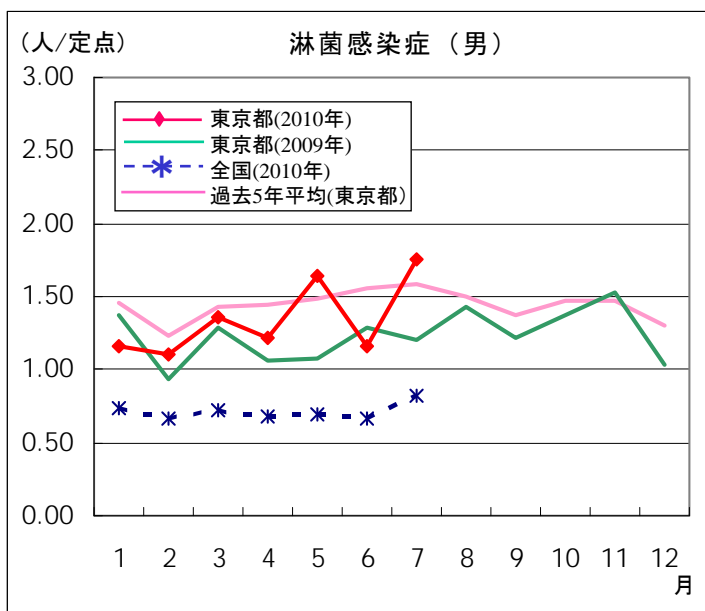
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	12	5	2	11		
中央区	3	10	2		3		
みなと	2	10	26	14	4		1
新宿区	6	30	14	20	36		4
文京	1	5		1	1		
台東	2						
墨田区	2	3		1	3		
江東区	2	8	5	4	9		
品川区	1		1				
大田区	2	2			1		
渋谷区	4	1	1	2	3		
中野区	2	4			5		1
杉並	2	1					
池袋	3	14	5	6	7		
北区	1	2		2	1		
荒川区	1						
板橋区	2	1			5		
足立	2	1	1	1	1		
江戸川	2	5	1	2	3		
八王子市	4						
町田	1					1	
多摩立川	2	1					
多摩府中	3	2					
多摩小平	1						
合 計	53	112	61	55	93	1	6
定点当たり		2.11	1.15	1.04	1.75	0.02	0.11

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2						
中央区	3	3		2		2	
みなと	2		8				
新宿区	6	16	15	8	11		
文京	1						
台東	2	2				2	
墨田区	2					2	
江東区	2	2			2		
品川区	1						
大田区	2	5					
渋谷区	4	5	9	4	1		
中野区	2	1		2			
杉並	2	1	1				
池袋	3	8	5	6	1	1	
北区	1	1					
荒川区	1	1			1		
板橋区	2	4			1	1	
足立	2						
江戸川	2	14			1	1	
八王子市	4	3	3	3			
町田	1	3				1	
多摩立川	2	12	2		2	1	
多摩府中	3						
多摩小平	1	2					
合 計	53	83	43	25	20	11	
定点当たり		1.57	0.81	0.47	0.38	0.21	

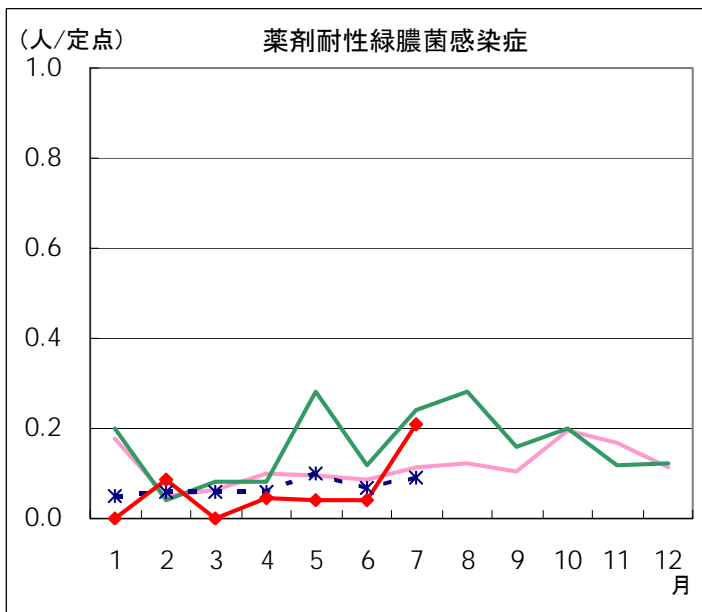
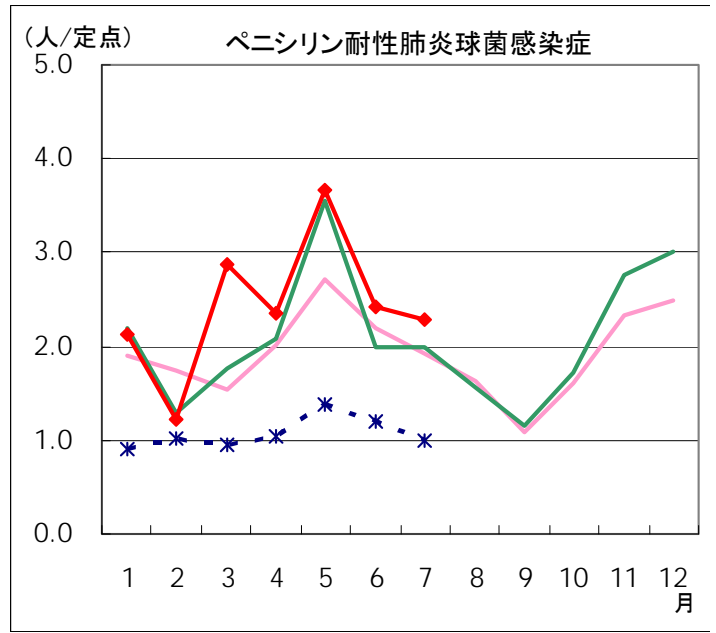
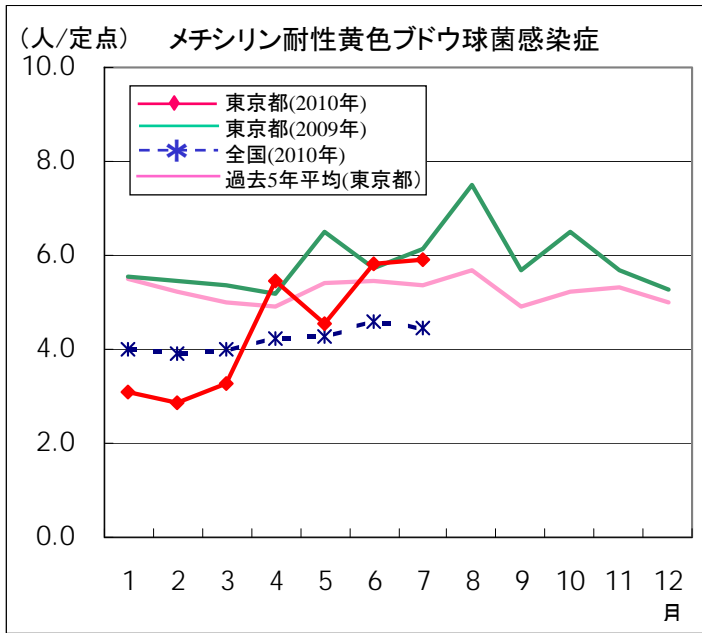
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2010年7月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
7/6	尋常性疣贅(陰茎)	記載なし	記載なし	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス16型	遺伝子
7/6	淋菌性尿道炎	22	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
7/7	陰茎ヘルペス	49	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
7/7	陰茎コンジローマ	49	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	
7/7	尖圭コンジローマ	29	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス11型	
7/7	淋菌性尿道炎	35	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
7/13	淋菌性尿道炎	38	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
7/14	尿道炎	32	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
7/15	性器ヘルペス	記載なし	男	ヘルペス部位擦過物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	遺伝子
7/15	陰茎ヘルペス疑い	46	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	
7/20	淋菌性尿道炎	44	男	尿	淋菌	
7/21	子宮頸管炎	26	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌、クラミジア	遺伝子 分離同定
7/21	尿道炎	30	男	尿	淋菌	
7/22	淋菌性尿道炎	51	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
7/27	陰茎コンジローマ	33	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	遺伝子
7/27	尿道炎	54	男	尿	クラミジア	
7/29	陰茎コンジローマ	32	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	
7/29	尿道炎	59	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	<i>Candida albicans</i>	分離同定
					クラミジア	遺伝子

<感染症豆知識>

日本紅斑熱

日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原体とする紅斑熱群リケッチア症の一疾患である。この病原体を保有するマダニ類に刺咬されることにより感染する。感染症法において四類感染症に位置づけられており、日本紅斑熱と診断した場合は最寄りの保健所に届出を行う。

感染症法が施行された1999年4月～2009年までに全国において737件の報告があり、5月～11月に報告の集積がある。症例を報告している26府県は太平洋側の地域が多い。東京周辺自治体の報告状況は、埼玉県1件(1999年)、千葉県29件(1999～2000年、2004年、2007～2009年)、神奈川県1件(2008年)である。埼玉県の事例の推定感染地は不明、神奈川県の事例の推定感染地は小田原市である。千葉県は2007年から3年連続して患者発生が認められているが、推定感染地は房総半島南部に局限している。今回、2010年第4週に特別区内を推定感染地とする日本紅斑熱の報告があった。これは感染症法施行以来、初めてとなる都内感染事例である。

日本紅斑熱に感染した場合、発熱、頭痛、倦怠感、発疹、トランスアミナーゼの上昇、白血球数・血小板数の減少などが認められる。またその感染形態から刺し口が確認されることも診断上有力な証拠となる。確定診断のために抗体検査(IgM抗体陽性、ペア血清でIgG抗体4倍以上の上昇)、PCR検査、病原体分離同定検査が行われる。治療にはマクロライド系抗菌薬が第一選択薬となる。

今後都内で不明発疹症の患者を診察した場合、日本紅斑熱も鑑別疾患として考慮する必要がある。

(文責 東京都健康安全研究センター 増田和貴)